

# ♪♪♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2016年9・10月 ♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

暑い夏が終わって少し過ごしやすくなってきたら、芸術(と食欲)の秋です！9月も28公演。9月16日(金)～18日(日)は第3回「宗次ホール弦楽四重奏コンクール」も開催されますので、公開マスタークラス(入場無料)にもぜひお越しください。

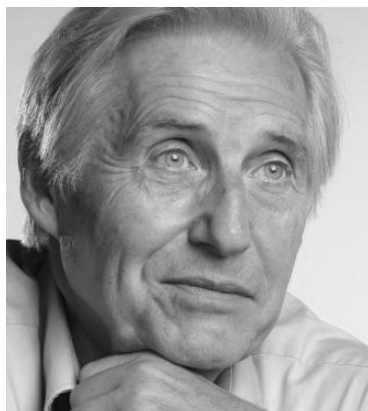
また9月27日(火)～29日(木)の3日間は休館日となっております。ご不便をおかけ致しますが、よろしくお願い致します。

(文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子)

迷わずにこのリサイタルは買って下さい。  
本当に音楽を愛する人は皆知っています！

ホアキン・アチューカロ ピアノ

9月19日(月・祝)15:00開演 5,000円(学生3,000円) [指定]



1932年スペイン生まれのアチューカロさんはベルリン・フィルやNYフィル等世界各国200以上のオーケストラ、名立たる著名な指揮者と共演を重ねてきた、スペインの至宝と評されるピアニスト。指揮者サイモン・ラトル氏はアチューカロさんの紡ぎ出す音色を、「ピアノは打楽器であり、音は減衰するが、幾人かの並外れたピアニストにかかるとその音はレガートとなって、あたかも溶け合い膨らんでいくような感覚にさせることができる。アチューカロもそのひとりだ」と語ります。

今年84才を迎えるベテランピアニストは今もなお自らを“ベテラン”と呼ぶことを避け、“新しいキャリアを築きはじめたばかり”と表現し、積極的に演奏旅行を行い、“週7日間違うホテル、違うベッドで寝るのも全くとわない”と話す並外れたエネルギーの持ち主。幼少期はルービンシュタインの大ファンだった父の影響で、毎週末には必ずラジオにかじりついてルービンシュタインのリサイタルを聴いていたそう。その後、憧れのルービンシュタインの前で演奏する機会を得、賛辞を得ます。

今回の来日ではバッハ、ベートーヴェンに加えて今年没後100年を迎えるスペインの作曲家、グラナドスによる最高傑作「ゴイエスカス」より特にロマンティックなメロディーが印象的な“嘆き、またはマハと夜鳴きうぐいす”や、同じくスペインを代表する作曲家アルベニスによる、きっと誰もが耳にしたことのある「タンゴ」、そしてグラナドスに推薦を受けてパリで勉強したスペインの作曲家モンポウはあまり耳馴染みのない名前ですが、極端に内気な性格だったため演奏家としての活躍を断念し、作曲活動に専念した人物。この日演奏される前奏曲も、モンポウの繊細な心にピアノを通して触れているかのような、響きが美しい小品です。

演奏家という職業について回る全てのこと、例えば長時間の練習、リハーサル、本番、舞台での緊張との付き合い方、重なる移動…等の、全ての局面を楽しんでいると話すアチューカロさん。演奏をするということは、バッハ、ベートーヴェン、モーツァルトといった天才たちの精神に触れるということであり、演奏する曲は全て自分の魂の一部だと仰います。

昨年数十年ぶりの来日を果たし、完売した東京公演では会場へ向かう車中で「ピアノを練習したい、今日は朝から練習する時間がなかったし、もっと上手になりたい」と話しておられたとか。80才を越えて尚研鑽を続ける、謙虚で偉大な芸術家の貴重な名古屋公演です！

驚異のアンサンブル精度！  
「凄い音を聴いた」感、半端ないです！

フォーレ四重奏団

10月6日(木)18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



弦楽四重奏団は世の中にたくさん存在しますが、ピアノ四重奏団ともなるととても珍しく、その中でも常設プロ団体として活躍する、稀なグループ。世界的ピアニスト、マルタ・アルゲリッチも「フォーレ・カルテットを聴いたら、誰でももう一度聴きたくなる」と大絶賛。他にも「ただの一音たりとも不揃いな音がない。アンサンブルとしての精密さ、フォーレ四重奏団の演奏は最高に熟練している」(グラモフォン誌・英)、「緩徐楽章がこの上なく美しい…」(ストラッド誌・英)、「各地で大絶賛されている若いドイツの音楽家たちによるこのアンサンブルは豊かなディナーミクによるコントラストと完璧なイントネーション、明瞭なアーティキュレーションで熟練した演奏を聴かせてくれた」(ファンファーレ誌・米)と、とにかく世界中の有名音楽批評誌で絶賛されています。数年前の日本ツアーに足を運んだ聴衆の方からも「(ブラームス四重奏曲第3番の)冒頭のピアノに頭を殴られて目が覚めたような感じがした、その“慟哭の音楽”に突き落とされ、あまりにも集中力に溢れた演奏に魅了され、ブラームスの音楽に正面から対峙せざるを得なかった、とにかくすごい」との声が。最初は閑散としていたホワイエの即売場に、休憩中にはCDを求める人が殺到したそうです。

ドイツ・グラモフォンからCDを何枚もリリースし、“ドイツのグラミー賞”と言われるエコー賞を受賞している彼ら。今回はブラームスピアノ四重奏曲第2番イ長調と、ピアノソロが原曲のムソルグスキー「展覧会の絵」を。どちらも、後年の作曲家自身によってオーケストラ版へ編曲された名曲。「展覧会の絵」の方はフォーレ四重奏団自身もアレンジに加わっており、その濃厚で豊かな響きが今から楽しみです！

お得なスイーツタイムコンサート！

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

裏面につづく→

**本格的な演奏と音楽の豆知識を両方たのしめる！**  
**9月11日(日)田中 正也 第7回魔法のピアノ**



大人気田中正也さんの魔法のピアノ・おしゃべりコンサートが今年もやってきます！7月にはカワイ名古屋さんで古典派についての講座を開催され、曲の誕生した環境などのお話を交え、大盛況だったそうです。チラシの裏面にもお客様からのお声をいくつか掲載いたしました。実は掲載しきれないくらいの喜びの声が綴られたアンケートを、昨年どっさり頂きました。“気持ちの良い演奏、ため息が出る程の音色の美しさ、演奏中の集中力

とおしゃべり中の空気の変わり方に圧倒、選曲も素晴らしい…”と読んでいてこちらも笑顔になってしまうような嬉しい言葉ばかりです。それもそのはず、この1時間半という短時間のコンサートで、曲想の異なる様々なバラエティに富んだ作品をわかりやすく、面白く魅せてくださるので、お友達についていこばれ話を話したくなってしまう程なのです。昨年4月からは大阪芸術大学演奏学科講師として毎週講義をされている関係で、トークが授業のように弾んでしまうと仰る田中さん。“伝えたい”ことが溢れてくるようです。ちなみに、大阪芸大に勤めはじめてからも度々学内で学生と間違われてしまうそう！羨ましい悩みです…！

今回はベートーヴェン「月光」、ショパン「革命」、リスト「愛の夢」といったピアノレパートリーの中でも有名な作品に加えて、ラヴェルの最高傑作の1つ「夜のガスパール」より「スカルボ」、そして15歳から単身モスクワへ渡った田中さんによるプロコフィエフも聴き逃せません！日曜日のお昼間ですので是非皆様お誘いあわせの上どうぞ♪

**ピアノデュオ専門の二人によるノリノリのプログラム！**  
**10月2日(日) ピアノデュオ ドウオール**  
**藤井 隆史・白水 芳枝**



ドイツ・マンハイム音楽大学でピアノデュオを学んだ二人によるコンサート！“ドウオール”とはフランス語の「ふたり(ドウ)」とヘブライ語の「光(オール)」を連ねて創られた名前です。私生活でもご夫婦であるお二人は今年で結成12年！「デュオは人間関係など難しくてなかなか続かないもので、夫婦であってもこんなに長く続くのは難しいかも知れません」とお話されます。ふたりの絆も音楽も深め続けてきた12年、国内外で550を超える演奏会を行い、常に新しい作品に挑戦し

続ける二人。音源が存在しないような珍しい曲に取り組むことも少なくないそうで、そんな時は“こんな素晴らしい作品を後世に伝えたい！”という想いが、なおさらやる気を奮い立たせるそう。  
先のアチューカーロさんの記事内でのサイモン・ラトル氏の言葉に「ピアノは打楽器であり、音は減衰するが…」という箇所がありましたが、正にピアノは弦楽器などと違って発音した瞬間の音が一番大きく、それ故ピアノデュオになると聴いていても“ずれ”が非常に目立ち易い楽器。ドウオールのお二人も「二人の息ではなく、指が落ちて鍵盤の底にあたる瞬間が一緒でないとずれてしまう。そこを甘くしたままだと本番が怖くて仕方なくなってしまう」ということで、一音ずつどのくらい太く鳴らすのか、長く伸ばすのか…入念に研究をされているそう。特に原曲が交響曲や弦楽器など、ピアノではない楽器の

ために書かれている作品をピアノデュオで演奏する場合には、弦楽器ならではの表現をそのままピアノに用いるのが難しいことが多くあります。和音の中のどの音を最も響かせ、どの音を抑えるのか、メロディーと伴奏のバランスはどう取るか…自分一人で完結してしまうソロとは違って、お互いを尊重しつつ二人で創り上げるデュオ。「1+1=1になるように、20本の指を持ったひとりの演奏家が弾いているよう」な演奏を目指しているそうです。

今回はバーンスタインの「ウェスト・サイド・ストーリー」、スメタナの「モルダウ」など！迫力のステージをお楽しみください♪

**心が喜ぶ！癒しの音楽によるひととき**  
**10月4日(火) 北欧伝統音楽の調べ**  
**ヨーナス・オーケルンド<sup>他</sup> フィドル & スウェディッシュ・バグパイプ**  
**ヨセフィーナ・パウルソン ニッケルハルバ**



スウェーデンの伝統音楽シーンにおいて、最もその実力が評価され、注目されているデュオ、待望の初来日による貴重な名古屋公演です。東京公演は早々に完売、クラシック音楽ファンの皆様にもぜひオススメしたい公演です！

スウェーデンの中でもそれぞれ異なる文化と方言を話す地方の出身であるヨーナスさんとヨセフィーナさんが「伝統音楽」という共通の原語の元に結成したデュオ。その自由な演奏、ヨセフィーナさんの奏でる中世の時代から伝承されてきた素朴な農民たちの楽器、“ニッケルハルバ”や、他様々な民族楽器の優しい音色はどこか懐かしさを感じる癒しの音楽。

即興的な演奏はまさに二人が自然に交わす“会話”のよう。その音色を聴けば二人の紡ぐ物語の世界にきっと心が癒されます。

**豪快なテクニックで沸かせたあのピアニストが再演！**  
**10月7日(金) イグナツ・リシエツキ ピアノ**



昨年11月に宗次ホールに初登場し、そのダイナミックな演奏で聴衆を魅了したリシエツキさん。今回はポーランド出身の彼らしい、シマノフスキの練習曲及びショパンの練習曲とノクターン、それにシューマンの交響的練習曲等です。3人の作曲家の“練習曲”を聴き比べることができるという、大変興味深いプログラムです。

シマノフスキの練習曲Op. 4-1をとっても、指の練習の為の曲とは思えない程叙情的で、ドラマチックな作品。しかしそこは、やはり“練習曲”というだけあり、弾きこなすのが難解なジャンル。例えば右手5本の指だけでも幾つもの異なる声部を弾き分けねばならず、複数人の歌手のパート(声部)を片手だけで掛け持ちしなければならないような状態。各々を聴きわけながら独立させて弾かなければなりません。

そしてディナーミク(音量)も極端に小さいものから豊かで極めて大きいものまで幅が広く、高度な技術とコントロールが要求されます。短い曲の中にもあらゆるピアニスティックな挑戦が盛り込まれているのです。

しかしながら名手の手にかかるテクニック的な難しさを感じさせることなく、ただ作品としての美しさに心を奪われてしまいます。

リシエツキさんの大きな意気込みと自信が伝わってくるようなプログラム。どうぞ、お楽しみに。

**チケットのご予約・お問い合わせは**  
**宗次ホールチケットセンターへ**  
**☎ 052-265-1718**